

## 審 議 会 会 議 録

会議名称	平成28年度 第3回伊達市立図書館あり方検討委員会		
議 題	(1) 今後の図書館に求められる機能について		
開催日時	平成28年9月14日（水） 18時30分～20時00分		
場 所	伊達市立図書館 1階閲覧席		
出席者	伊達市立図書館あり方検討委員会委員 9名（欠席者1名） 事務局（伊達市教育委員会教育部図書館）		
	所管部課名	伊達市教育委員会教育部図書館	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	4名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	

### 【会議の概要】

1. 開会
2. 議事

(1) 今後の図書館に求められる機能について

【事務局より資料説明】

【質疑なし】

委員長～それでは、今後の図書館に求められる機能について、追加の意見や、場合によってはこれは必要ないのではという意見、修正等を出していただきたいが、まずは私から述べさせていただきます。

これまで出た意見は、大きく分けると3つになる。1つ目は書物や資料が豊富に揃っており、それらを容易に利用できる情報の集積基地の役割としての図書館。2つ目に、幼児や小中学生、高齢者まで、あるいは体の不自由な人も気軽に読書や学習ができる場所、いわば生涯学習の拠点となる図書館。3つ目に、読書するしないにかかわらず、市民が気楽にくつろげる居場所となるとともに、本や人と出会えるような、文化の交わる場所のような図書館。

それらの観点から、取組・運営の部分を効率的に効果的に実施していくためには、様々なニーズに対応できる職員数の充実が欠かせないと思う。追加意見としては、他の図書館と比べても人数が少ない司書の増員。特に嘱託職員ではなく、正職員の司書の配置が必要だと思う。先日新聞に掲載されていたが、室蘭市は正職員3名、嘱託職員が16名もいる。嘱託職員の司書が多いと思うが、その人たちを指導したり束ねる意味でも正職員の司書の配置が必要だと思う。併せて、司書の研修を積む機会が充実していれば良いと思う。そもそもの人数が少ないと研修に出かけることも難しいので、司書が増えれば交代で研修に参加できると思う。

私も図書館ボランティアをしていて感じるが、職員が良い仕事をしていくためには働きやすい職場環境も必要だと思う。今の図書館は、働く場所としてはあまり快適とは言えないと思う。機能的な司書室、本の修繕などの作業室、プライバシーに配慮できるような職員用の休憩室やロッカールーム。市資料の保存や管理上も必要になってくるが、空調設備も必要だと痛切に感じている。

それでは、みなさんからの意見をいただきたい。

委員～結論から言うと、建物そのものが狭いという事が大前提にあるので、そこを解決する事によって、今問題になっているかなりの部分が解決すると思う。伊達市の規模に見合った建物にすべきだという事が大前提にあると思う。現状の中で色々工夫しながら運営してこのレベルを保っているのが現状。解決しようとするならば、やはり、建物を建て替えることを大前提に考えることが必要だと思う。

委員長～開架図書の増加、個別ブースの設置、静と騒の区分け等といった課題は全て建物のキャパシティの問題で解決できる部分が多いので、最終的には建替えが必要なのかなと思う。

委員～「バリアフリーへの配慮が必要」との意見があるが、バリアフリーとは何なのかという議論は全くされていない。平成25年に障害者差別解消法が制定され、今年4月から施行された。それを考えると、単純に動線をどうするとかの問題では済まない。努力義務であって、絶対にしなければいけない訳ではないが、この法律を意識しながら考えていくなれば、我々自身もしっかりと理解しなければいけない。単純に提言書でバリアフリーへの配慮について述べても、説得力のあるものにはならないと思う。

委員長～前回までの会議の中でも、車いすで利用できる施設ではないという意見があったが、それもバリアフリーという点では大きな問題だと思う。

委員～例えば、目の不自由な方が、図書館に来て何かを調べたい時に対応できるのかといった幅広い意味でのバリアフリーを考えなければいけない。障がい者であることを理由に差別を受けてはいけないというのがこの法律の趣旨なので、事務局を中心にこの辺の整理をしていただきたい。バリアフリーという言葉で済ませると認識が甘いということになりかねない。

委員～障がいのある人も図書館のサービスを受けられる仕組みを考えると、建物だけではなく、職員が対応できる仕組み作りが必要という事を提言の中に盛り込めば良いと思う。建物のユニバーサルデザインと運営側のユニバーサルデザインの二つの視点が必要という表現で良いと思う。

前回出た意見の中でバスとの接続に関しての項目が抜けているので追加していただきたい。これに関しては、同じくユニバーサルデザインの発想が必要で、車いすで来た方がすぐ中に入って来られるのか、建物の設計そのものの話になってくると思うし、ほとんどの図書館で対応がなされていると思うので、建替えて、この先40年使っていくとなった時に、今後の人口構成も考えて使いやすい建物を考える必要がある。

委員長～建物だけではなくサービス面でもバリアフリーへの配慮が必要という意見を追加する。伊達の図書館にも点字図書があるが、使いづらいのかとも思う。公的機関なので、法令に準拠したバリアフリーへの配慮をお願いする。

委員～「来館出来ない人へのサービス」という意見も、大きく言うとバリアフリーに関係していると思う。伊達市の場合は、地域文庫の設置や学校への図書の巡回である程度は対応がなされていると思う。これはすごく良い取り組みだと思うので、積極的にPRし、事業を拡大していくということも提言の中に含めると良いと思う。

委員～先ほどのバスとの接続についてだが、停留所と入口を近づけると、降りてすぐ建物に入れるし、外でバスを待つのではなく、館内で待つ事ができる。冬の寒いとき

に外で何十分も待つのではなく、図書館で本を読みながら、バスが近づいてくるのが見えて、それから外に出るような環境が良いと思う。これはデザインで解決できるので、建物の中だけではなく、外との接続部分も含めたデザインが大事になると思う。

委員長～現在、駐車場の外側にあるバス停を駐車場の中にまで引きこんだ形にならないかという事だと思うが、まず、根本的にバスの本数が足りないという事もあると思う。

委員～先日の図書館運営協力会で、現在の場所が自然環境的にも良い場所だから利便性を求めて街中に移るよりも、現在の場所での建替えが良いとの意見があったと報告した。それに対して、確かに現在の場所は良いが、夜になると暗くて危ないとの意見があった。交通アクセスと併せて夜間照明等の周辺環境整備に関する意見も提言に追加したい。

委員～ICTの活用も含めたDVDやCD等のメディアを活用できる設備の設置についても意見を追加したい。

都市計画の話をしていると、買い物難民の話が出てくる。買い物は生きてく上で必要なので、トドック等のサービスがある。図書館についてとなると、本が無くても生きていけるのかもしれないが、豊かな生活を送るには必要だと思う。来館してもらおうのか、届けるのかというところでコストを下げるときに、トドックと連携するなどの話が出てくるかもしれないが、そういったところまで管理できるようなICTシステムがあるのか。

事務局～本の配送サービスはしていない。

委員～貸出を管理するシステムはIT化されていると思うが、拡充の方向性がもう少しあると思う。

室蘭市の図書館で道立図書館との連携が図られ、道立図書館の本が近場の室蘭市の図書館で借りることができるようになった。そういったシステム的な連携が来館出来ない人へのサービスに関わってくる。図書館に来られなくても近場の郵便局に行けば受け取れるとか、そういった仕組みづくりも大事になると思う。そういったシステムのIT化の方向性も必要だと思う。

事務局～他館資料を取り寄せて、来館してもらい貸し出すというところまでは現在行っている。道立図書館との連携に関しては、今年度から利用者が直接インターネットを通して取り寄せることが可能になった。

委員～40年先まで見据えたときに、インターネット関係の進歩は目覚ましいものになると思う。そこまで予測する必要はないが、少し先を行ったシステムの導入も考えた方が良く思う。

委員長～Amazon等の大きなところではごく普通に行っているが、公共機関となるとなかなか難しいかもしれない。

先ほどのバリアフリーとの繋がりや、来館出来ない人へのサービスの一つとして、将来的には来館しなくてもどこか近くの公的機関等で図書を受け取れるようなサービスにつながれば良いという意見を追加する。

委員～より便利なシステムができれば、図書館としても大いに活用していくという表現

にすると広い意味で表現できると思う。

委員～室蘭工業大学の図書館は電子ジャーナルもあるし、北海道新聞を過去の分も含めてPDF化している。電子化することで探すのも容易になる。司書を多く配置できない中で効率を上げていくなれば、そういった仕組み作りも大事になってくると思う。

委員～「小、中、高校への利用促進PR」についてだが、小学生の職場体験をしている図書館もある。利用者の立場だけではなく図書館を内側から知り触れてもらい、図書館を知ってもらう事も良いと思う。

「POPによる積極的なPR」、「本との出会いの仕掛け」という意見が出ているが、職員が少なくなかなか時間がとれないのであれば、市民を巻き込んで、利用者による本の紹介を掲示する場所があれば良いと思う。利用者同士の本を通じた交流も図られる。

委員長～小学生のインターンシップの受け入れは行っているか。

事務局～小学生は年に1回、子ども一日司書という事で毎年各小学校から順番で受け入れている。中高生のインターンシップは要請があれば受け入れるという状況で、図書館からの積極的な働きかけによるものではない。

委員長～インターンシップに関しては受け身ではなく、積極的に受け入れていくという事と、利用者を巻き込みながら本と人を結びつける取組が必要になってくる。

読書に関するアンケートを取って公表するとか、読まれている本のランキングを発表するとか、読者の声を紹介するとか、図書館報を作って市長や教育長の読書体験を載せるとか、様々な取り組みができるのではないか。

委員～建物・設備に関してITとかの大きな話があったが、取組・運営に関して、WEBを有効に使った情報発信も必要だと思う。

委員長～現在、館内以外で図書館に関する情報を得る方法はこういったものがあるのか。

事務局～広報だて、市ホームページ、フェイスブックを活用している。

委員長～各種のツールを使って様々な人の目に留まるような情報発信が必要という事で整理する。

委員～伊達市の図書館としては、今の人員の中では頑張っていて良くやっていると感じる。今後さらなる充実を図るためにも、先ほどの職員の増員に結びつけた表現にすれば良いと思う。

委員～確認だが、これからの建物や取組について色々と意見が出ているが、今の図書館の人員だとかの現状があるなかで、何を以って意見を出せば良いのか分からなくなってくる。夢や理想を求めても、今の現実がこうだから難しいという事になるのであれば、今の現状に合わせた内容の話の方が良いのか、将来も見据えた内容での意見交換をすべきなのか、どちらに向かえば良いのか分からなくなってしまう。建物の規模についても、色々な機能を入れた方が良いという話をして、実際にそのような建物になるのか分からないのであれば、そこまでの意見は出せないのかとも思う。あくまで提言だから、夢や理想を求めた意見を出していこうというのであ

れば、色々な意見が出て、そこからまとめていくような感じにすれば良いのだろうが、今の現状の中で話を進めていくのであれば、また違う方向性の議論になっていくのかと思う。

委員長～私の認識では、現状の図書館には問題がありこのままではいけないという事で、現状の図書館をどうしたら良いのか、伊達市の図書館はどういった図書館が良いのか、どうあるべきなのかを市民目線で意見を出し、その提言に基づいて、改築や増築、運営の仕方、取組内容等について市が検討する。提言内容のどこまで実現するかは分からないが、そのための提言をするのがこの会の目的と考える。

事務局～将来的にどのくらいの規模の図書館になるのか等については分からないが、市民がどういったものを求めているのかを捉えたい。運営等についても、市民、利用者の求めるものを確認したい。それらを提言にまとめていただき、どこまでできるかについては、市内部で検討し方向性を決めていきたい。金がない、土地がないからといって意見の範囲を狭めるのではなく、自分が一番利用したいと思う図書館はどういったものなのか意見を出していただきたい。

委員長～増改築ありきではないが、図書館の抱える課題を解決し、伊達市の図書館として求められる姿について、未来志向で理想的な図書館像についての意見をいただきたい。

委員～「イベント集客による利用促進」について、図書館本来の機能を持つ部分と、交流空間や学習の場、イベントを行う空間等と機能別に空間を分けていくことになる。改築となった場合、どのくらいの規模の建物になるのかによるが、施設のコアとなる本来の図書館機能を持つ部分とその他の部分の空間規模のバランスはどう考えているのか皆さんのイメージをお聞きしたい。図書館だけあって他の空間はそれほど必要ないと考えるのであれば、今の建物の規模でも良いかもしれないし、交流空間等を広く求めるのであれば、もっと横や縦に広い建物が必要になる。イベントについて、札幌市では、地下歩行空間でコメントを付けた文庫本の交換を行っている。図書に関わるイベントは、実はいろいろな方法があって、そういうものまで含めて発信していくとなると、今のスペースでは当然できない。先に制約を考えると話が収束してしまうが、どのくらいの空間バランスをイメージしているのか。

委員～建物の規模までの意見については、今、我々に求められているとは思わない。今回の提言を材料にして行政の中で検討していくこと。今後、建てるとなった場合はまた別の審議会を設置して検討していくことになるであろう。専門的な部分での話はここではできないと思う。ある程度、大きな話で良いと思うが、説得力はしっかりと持った内容にしなければいけないと思う。

委員～空間的な大きさの話になると、次の段階での話になると思うが、夢を語るうえで機能的にどちらの夢が大きいのか、本来の図書館機能をメインに充実させるのか、生涯学習の場になるといったことを考えてそちらのウエイトも重くするのか。

委員長～我々には、具体的な話ができないが、それぞれ必要なスペースの意見を提言にまとめ、最終的な判断は市がすることになる。

委員～函館市の図書館を新しく作る時に、この会と同じような組織があり、市で建設を決めた後、専門家を集めて新たに審議会を設置して具体的な中身について検討し

ていったようだ。

委員長～今後、市がどう考えるかは分からないが、図書館を何とかしなければいけないと  
考え、第1の取っ掛かりとしてこの会が設置されたと思う。

委 員～「学校司書制度導入」とあるが、図書館との結びつき方が良くわからない。

委 員～先生と司書との掛け持ちの司書教諭ではなく、専任の司書を教育委員会が各学校  
に配置するという。恵庭市では全小、中学校に配置している。

委員長～学校司書制度を導入するのは、図書館ではなく本来は学校であるが、恵庭市では  
図書館が司書を抱えて、その司書を各学校に派遣する仕組みで学校との連携を図っ  
ている。

委 員～望ましいのかもしれないが、一方では図書館自体の体制も強化しなければいけな  
いなかで、そこまでできるのかという心配がある。

委員長～この意見については、図書館運営協力会から出てきているものだが、図書館とし  
て司書を学校に派遣しようといってもすぐにできるものではなく、学校側の受け入  
れの問題にもなってくる。図書館だけが決めて進められる内容ではない。

委 員～提言にどのようにまとめるか分からないが、理想を追い求めすぎても、受け取り  
側に本気さが伝わらないのではないかと思う。提言に説得力を持たせるためにも意  
見の整理が必要だと思う。

委 員～市の財政的なことも分からない中で、どこまでの理想を提言するのか判断できな  
いと思う。そういう意味では、ある程度理想的な内容を伝えることしかできないと  
思う。あえて提言から外すという判断は難しい。

委 員～学校司書制度の導入は、小、中学生への読書推進を図る機能を実現するための手  
段であって機能ではない。今回は、図書館に求める機能についての提言なので、参  
考情報としてこういった手段があるという程度に留めるのが良いと思う。

委員長～子どもたちの読書活動をいかにして推進するかという背景をもって出てきた意  
見なので、市内各学校との連携を進めるという事で整理する。

委 員～いずれにしても、残りの会議の中でまとめていく段階では一定の整理が必要だ  
と思う。

委 員～図書館を建て替えるとなったら、黙っていても人は集まる。それが3、40年経  
過したときに本との出会いの仕掛けは必要になってくると思う。子どもと図書館を  
結びつけるために、図書館が行っているブックスタートが最初のきっかけになる  
が、その後なかなか図書館との結びつきを持てる機会がない。イベントがあるから  
来るとか、その他の魅力で結びつけていかなければ、本当に本が好きな人たち以外  
を呼び込むことは難しい。学校司書制度は小、中学生を本と出会わせるのに非常に  
良い取り組みだと思う。

委 員～そもそも図書館はなぜ必要なのかということが検討されていないように感じる。  
提言をするとすると、ごく一部の人に対してではなく、伊達市がこれだけ図書館を

必要としているという事を全体に知らしめなければ市は動かないと思う。それによって規模も変わってくる。図書館にはいろいろな空間が必要だとの意見が出てきているが、なぜその空間が必要なのかという、そもそもの話はどうか。

私は、これからの次世代を担う子供たちには本のある空間を提供していきたいと思う。TVゲームやスマホだけの生活ではいけないと思うので、本との出会いの仕組みづくりのためにも、基地となる図書館は必要だと思う。お金のあるどこの都市を見ても、すてきな図書館があるが、逆手にとって伊達らしさを出しても良いのではないか。もちろん新しい建物での話だが、極端に言うと自然を生かして、縁側があつてそこにニワトリがいて、そこで本を読めるといったようなものはセンセーショナルだと思う。それが良いという事ではないが、そういった内容を含めても良いのではないか。

新しくできる図書館は、年代を問わず色々な方が来るのが望ましいと思う。今年の夏は暑かったが、クーラーのきいているところに用事がないのに何時間も人が集まって来ていたように感じる。その時間を図書館で過ごしてもらうように導ければ良いと思う。

委員長～この場で皆さんから、そもそもなぜ必要かについて意見をいただきたいという事か。

委員～いいえ。前回での意見はすべて大切なものであるが、そもそも図書館は必要なものなので、大きな柱として3つになるか5つになるかは分からないが、これとこれとこれが必要なので、その周りにはこういったものもあると望ましいという提言内容で良いと思う。その柱をまとめる為には、図書館はなぜ必要なのかというところの根本をしっかりとっておかないとまとまらないと思う。

委員長～今日までの内容を整理して、提言のたたき台になるようなものを4回目の会議で示していきたいと考えている。そこで、また取捨選択することができるので、資料で示した提言書イメージ図（案）についての議論に移りたい。

まず、3つの柱についてはどうか。

委員～この3つの大枠でおよそカバーできているので、「図書館」を「機能」に置き換えれば良いと思う。考えていくと4本、5本と出てくるが、提言書にまとめることを考えると分かりづらくなるので、この3つの柱で良いと思う。

委員長～柱についてはこの3つで良いか。

全員～よし。

委員長～次に、各意見の配置場所についてだが、「選書への市民ニーズの反映」は「本と人を結ぶ図書館」にも関わるので中間に移すと良いと思う。

他にはどうか。

委員～「バリアフリーへの配慮」も建物だけの問題ではないので移動した方が良い。

委員～三つの柱の外に出しても良いかと思う。

委員～「新聞の保存方法の検討」については新聞以外にも広報や色々な資料があり、電子化等も絡んでくるので「過去の記録へのアクセス」に表現を変えた方が良い。

委員長～「アクセス網、周辺環境の整備」を中間に、「退職教員等による学習サポート」も中間に配置した方が良い。

委員～「放課後学習の場を提供する働きかけ」と「退職教員等による学習サポート」をまとめて、大きな表現にしても良いと思う。配置としてはこのままで良いと思う。

委員～「貸出ランキング等の情報提供」、「POPによる積極的なPR」も「情報の充実した図書館」との中間に配置した方が良い。

委員～資料2ページの内容に、3ページの3つの柱を入れて整理をした資料を作成してほしい。

委員～確認だが、次回で提言（案）について話し合うのであれば、意見がある。

人口が増えているのであれば、色々と議論できるが、40年先は1万人ほど人口が減る推計になっている。そういうことも意識した提言書でなければいけないと思う。人口が減少したとしても、これが必要だという内容にしなければ、欠けた部分があると感じる。

蔵書数について、現在は人口類似市と比べると少ないが、今後人口が減っていくときにそれでも蔵書数は増やしていくのか、どうするのかといった内容も必要。除籍の基準はあるのか。

事務局～主に、汚損・破損したものを除籍している。購入、寄贈図書と同数程度の資料を除籍している。

委員～過去からの推移をみると、最近は多く除籍されているようだが、除籍の基準を作らないと増える一方になるのではないかと。汚損・破損だけではなく、例えば過去5年間での読まれた回数などの基準を作って対応していかないと、いずれはまた建物の許容範囲を超えてしまうのではないかと。

委員長～昔、学校の図書室に携わっていた。記憶違いでなければ、除籍の基準や方法について、ある程度のことは図書館法で定められていたかと思う。除籍のリストを作成し市民に公表して、特に意見がなければ除籍するといったことが書かれていたと記憶している。

事務局～伊達市ではそのような方法はとっていない。

委員～人口減少については図書館だけの話ではなく、色々なところに影響してくる。伊達市全体の人口が減る中で、一人一人の幸福度は下げないで、今よりもっと幸せになるための行政サービス全体の仕組みづくりを議論していると思う。人が減ることに合わせて図書館の規模を小さくするというのではないと思う。より使いやすくして、規模を考えながらスマートに成長し、今よりも幸せになれる仕組みづくりを考えることが必要。人口は減るが交流人口が増えとか、移住者が増えとか、全国一律人口は減っていくのだが、増える自治体は増える。そうなった時に、温暖な気候のほか、良い図書館があるという事も武器になるのではないかと。

委員～人口減少に入った時代に新しい施設を作るとなると、将来も意識した提言にしなければいけないと思う。

委員～私から資料を1枚提供したい。学校死ぬほどつらい子は図書館へという他市の図



書館のツイッターに関する記事が書かれている。市役所にしても店舗にしても、1日中いても良い施設はどこを見てもまずないと思う。図書館の可能性の一つとして良い内容だと思い紹介した。

委員長～立派なものを作ったのは良いが、活用されずに終わるような図書館にならないために、今後の図書館のあり方を提言する必要があるのかと思う。

次の委員会では提言書(案)ではなく、提言書のたたき台になるものを示したい。

事務局～次回は、11月30日(水曜日)18時30分から、場所は1階の閲覧コーナーで開催する。

### 3. 閉会